

# まるこやま

第54号

平成31年 3月20日

〒699-1251  
雲南市大東町大東2419-1  
大東交流センター  
TEL(0854)43-2130  
E-mail:daito-c@hotaru.yoitoko.jp

大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会

## 3月10日 大東中学校卒業式

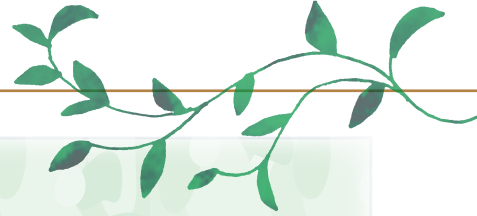
別れの後は新たな  
出会いがあり、旅立ちです!!

君たちの前には  
いくつもの道がある  
飛び出せ!!



*Congratulations  
on your graduation*





# 「一粒の麦」から70年

元公立雲南総合病院事務部長 佐藤 竹昭

病院設立の胎動は昭和10年代初期、産業組合活動の中に芽生え、終戦を機に貧困で医療を受けられない雲南地域の請願に応え、島根県農業会が岡山大学医学部の指導のもと、昭和23年3月1日「一粒の麦」雲南共存病院が誕生しました。

その間、当時の農家の子弟（故高橋英夫、門脇潔氏等）を中心として「いつでも どこでも 誰もがより良い医療を」を合言葉に病院設立の運動が熾烈に行われ、難産の末に実現したところです。

それ以来、岡山、鳥取、島根大学の不断の支援を仰ぎ、昭和36年4月1日より大東町外9ヶ町村雲南病院組合の管理による自治体の総合病院となり、その後、平成の大合併により平成16年11月1日より名称も「公立雲南総合病院」に、そして平成23年4月1日には、雲南市が経営する「雲南市立病院」となりました。

平成27年10月からは新棟の建設工事が始まり平成30年3月3日には、新棟竣工式及び開院70周年記念祝賀会が開催されました。

その後、平成30年度には既存の東棟の改修工事により管理棟に、また、西棟の解体工事後の跡地に

駐車場の整備を行い、本年9月にグランドオープンを迎えます。

今後、雲南圏域の医療充実に一層貢献され、住民にとって「必要で誰からも愛される病院」であることを期待します。



病院西棟（昭和42年に雲南共存病院本館として建設）解体工事

## 早稲田大学留学生ホームステイ事業

留学生 リンセン・エスレン



### 一ヶ月のホームステイの思い出

島根県に来る前、東京で5ヶ月ぐらい住んでいましたが、来ました時すごく緊張していました。人は、「田舎の生活と東京の生活はとても違う」と言っていました。学校訪問で、うんなん市の子どもたちに外国の文化や僕の育ったアメリカについて教えることに緊張がありました。しかし、子どもたちと交流して全部よかったです。たくさん大切な経験をして、すばらしい思い出を作りました。

小山さんというホストファミリーには、たくさんのことをよく習いました。足立美術館、石見銀山、加茂銅鐸に行き、分からなかったら小山さんは説明してくれたり、少し出雲弁とずーずー弁を習ったりしました。

全部は本当に楽しかったが、一番好きだったことは、学校で長らくいて楽しい日の後、毎日家に帰っていい食べ物と会話があることでした。それから、小山さんの子どもや孫たちとビデオ電話して会って、僕のアメリカの両親とも会いました。

一ヶ月だけでしたが、本当の家族の感じがありました。今月を忘れません。



| 平成31年<br>2月末現在の<br>人口・世帯数<br>( )内は対前々月比 | 項目   | 総人口            | 男性             | 女性             | 世帯数              | 高齢化率            |
|---|------|----------------|----------------|----------------|------------------|-----------------|
|   | 雲南市  | 38,392人 (▲87人) | 18,521人 (▲36人) | 19,871人 (▲51人) | 13,771世帯 (▲15世帯) | 38.30% (+0.12%) |
|   | 大東町  | 12,250人 (▲22人) | 5,970人 (▲11人)  | 6,280人 (▲11人)  | 4,173世帯 (▲4世帯)   | 38.17% (+0.10%) |
|   | 大東地区 | 3,579人 (▲9人)   | 1,715人 (▲5人)   | 1,864人 (▲4人)   | 1,255世帯 (+2世帯)   | —               |

資料：雲南市HPより



# 大東こども園に来てくれて、ありがとう～! また来てね～!

雲南市立認定こども園 大東こども園 園長 古瀬 芳美

雪を恋しいと思った冬も終わり、春がやってきました。

大東こども園の年長児16名もいよいよ4月から1年生になります。

そんな子どもたちのところに、先月28日に早稲田大学の留学生さん4名が遊びに来てくれました。これは、今年で34回目を迎える「早稲田大学留学生ホームステイ事業」の一貫で「学校訪問活動」としてホストファミリーの方が企画して下さった交流です。

とてもチャーミングな留学生のお姉さんたちに、子どもたちはいろいろなことを質問してみました。地球儀を見ながら、「行きたい国はどこですか?」「会いたい動物は何ですか?」「パンダは英語で何ていいますか?」など、子どもらしい楽しい質問が次から次へと出てきました。どんな質問にも笑顔で、丁寧に、日本語で応えてくれた留学生さんのことを、子どもたちはあつという間に大好きになりました。

一緒に鬼ごっこをしたり、♪USAを踊ったり、給食を食べたりしながら、とても有意義な一日を過ごすことができました。

その中で聞こえてくる留学生さん同士のスピーディーな英語でのやりとり!子どもたちは、「英語で何って言っとらい?」と興味をもちながら聞いていました。

国際社会の子どもたちの未来がとても楽しみに思えた一日となりました。

ホストファミリーのみなさま、ありがとうございました。



にがおえで  
こんにちわ!

## よさこいで地域を元気に!

光舞ほたる指導者 曾田美佐子



(絵:大東町東町北 細田 滋)

私がよさこいに出会ったのは2004年頃、一人の看護師がイベントのチラシを持ってきて、「踊ってみたい」という声からでした。医師や看護師、検査技師、事務などいろいろな職種が集まって、最初はダンスクラブの講師を呼び、見よう見まねで踊りを覚えました。衣装製作や化粧なども自作で仕上げ、1年も経たない最初の出演が広島の花フェスティバル。練習も仕事の合間で集まっていたので、無謀ともいえる初演でした。しかし、参加チームの皆さんが暖かく声をかけて下さり、踊り終えたときの一体感は今でもとても心に残っています。

その後、大東でも地域を盛り上げるためによさこいチームを発足したいという声が上がリ、微力ではありますが指導をさせて戴くことになり早5年目を迎えました。「光舞ほたる」は私を含めて中高年を中心としたメンバーです。踊ってみたいという人たちで結成され、決して踊りは完成度を求めるのではなく、「楽しく、元気に!」がモットーのチームです。踊ることで自分たちは元より、見ている人たちにも元気を持ってもらいたい、そんな地域おこしの精神が、今なお楽しく続けられる所以だと思います。

よさこい踊りは、高知県が発祥ですが、北海道のよさこいソーラン、福岡のふくこい祭りなど今や全国に広がり、よい世の中よ来い、「いい世さこい」と形を変えて踊られています。これからも体が続く限り、地域の皆様の元気にエールを送っていきたいと思います。ご声援よろしくお願いします。

# まなびの泉

## スペシャルなチャレンジ1st

大東中学校1年 上代 小建太

雲南の未来をひらくチャレンジャーの学びと成長を後押しする「雲南スペシャルチャレンジ」の1期生としてカンボジアスタディツアーへの参加を応援していただけることになりました。

3月23日より6日間、カンボジアの孤児院の子どもたちとの交流やアンコールワットへの訪問を中心としたスタディツアーへの参加が今回私のチャレンジです。

チャレンジへ参加しようと思ったきっかけは、父が海外へ建築探訪に出かけたときの話や3年生がリッチモンドのサマースクールへ行った話を聞いて、自分も知らない世界へ出かけてみたいと思った

からでした。

スペチャレの1期生は自分も含めて14名いますが、参加するには他のチャレンジャーとの交流や情報交換をはじめとした市内、県内で行われている研修等への参加が求められ、積極的に参加させてもらっています。

カンボジアへの出発はこれからですが、現地に行ったらネットではわからなかったことやむこうの子どもたちとの交流を通じてのたくさんの気づきがあると思います。帰ってきたら雲南市のみんなにそれらを伝えたいと思います。チャレンジしてよかったという報告ができて、それがまた友達のチャレンジへとつながり、チャレンジの輪がどんどん広がっていったらいいなと思います。



## 大東小学校学習

### 「ほたる発表会」頑張りました



1月21日に大東小学校4年生(2クラス39名)の「ほたる発表会」があり、校区の地域自主組織や赤川ほたる保存会などから25名が

参加しました。

この発表会は、4年生が「総合的な学習」の時間に、地域の貴重な教育素材である「赤川のホタル」を題材とした環境学習に取り組み、そのまとめとして地域の人に向け発表するものでした。

参加者は、8グループに分かれて発表の店を順に回りながら、1グループ5～8分の全ての店の発表を見ました。

どのグループも授業の中でインターネットや参考図書、図鑑などを使って調べたり、ほたる保存会の方から教わった知識を、紙芝居やクイズ形式として取りまとめ発表していました。

児童は学習の成果を自信に満ちた態度で発表し、「ホタルの学習を通して感じたことは」という我々の質問に対し、「赤川の水質がよくなってきていること」、「ほたる保存会をはじめ地域の人々の取り組みに感謝していること」、「ほたるが飛び交う大東が大好き」、「自分たちもホタルが住みやすい町になるようがんばりたい」と答えてくれました。

こうした児童の姿に接し、美しいふるさとを守り、住みやすい地域を作っていかなばという思いを新たにしました。

(生涯学習推進員 小山)

### 「ぼくらの七夕祭」に誇りをもっています

2月12日に大東小学校5年生36人を対象とした総合学習「ぼくらの七夕祭」を実施しました。当日は、大東生涯学習運営委員会の職員4人が出来たばかりの七夕祭写真集を教材に歴史や地域の取り組みを説明し、児童たちがあらためて440年余り継承されている「大東こども七夕祭」の魅力や大切さに気づく学習会となりました。児童からは「もっと宣伝して地区外や県外、外国人の参加を増やしてはどうか」とか、「宮以外の出身だけど友達がいる宮に参加してみたい」などの意見が出されました。また、2年生の親子活動「すいか提灯作り」も大東ならではの七夕学習として10年近く続けられ、七夕祭に対する愛着や誇りをもってもらう重要な学習となっています。

少子化の時代を迎え、「大東こども七夕祭」の運営に多くの課題がありますが、時代を超えて受け継がれた地域に根付くこの伝統芸能は、地域・ふるさとの絆の証としてなくてはならない存在です。子どもたちのいきいきと輝く笑顔をいつまでも大切にしていきたいものです。

(交流センター主事 安部)





## 2度目の大阪万博 (2025年5月3日～11月3日間で開催)

大阪府箕面市 (金成出身) 藤原 洋二

今は大東にお住まいでも過去に大阪で住んでおられた方には2025年に開催 (今回) の「大阪・関西万博」が決まった時は1970年 (前回) の千里での万博が蘇ってきたのでは。地元で開催されないと関心が薄いと思ひ、今回皆さんに興味を湧くよう不定期ながら情報を提供しようと思ひます。開催は6年後。それまでに4月で平成が終わり、6月にG20、7月に参院選、9月にラグビー世界大会、10月消費税アップ、

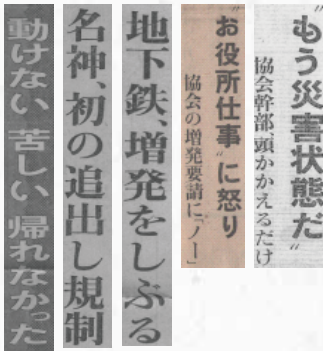
他に大阪独自の課題である大阪都構想、IRの誘致等もありすぐに万博集中とはならない状況です。

開催場所は夢洲 (ゆめしま)。(夢洲と言えは平成25年西日本学童軟式野球大会で大東の学童が試合をした舞洲の隣) 今ここは橋のみでつながっておりJRと地下鉄の延伸を計画。また周りは海に囲まれており、前回の千里の竹林とは全く環境が異なっている。

夢洲万博予定地



前回の新聞記事を見ながら今回はこうして欲しいと願ひ私見を述べます。



①交通対策。前回来場者が1日に80万人にもなり予想より多く、交通が混乱し左記のような見出し。今回魅力ある内容となればそれ以上の来場者も考えられるので、足の確保は十分に検討したうえで進めていただきたい。

②テーマ。前回は「人類の進歩と調和」今回は「命輝く未来社会のデザイン」。前回の動く歩道、電気自動車、コンピュータによる集中管理、遊具のダイダラザウルス等現在では当然のようになっているが、前回は開幕当初に故障、事故が相次いで発生し、未来都市は安全で快適であるべきなのに、そうでなかった。報道では「会場は未来都市ではなく既成都市の延長に過ぎなかった。」と評した。会場関係者だけが自己満足に終わるよう設備、催しものは避けていただき、主賓は来場者であることを第一に考えて欲しい。

③災害対策。これは万博が過ぎれば終わりというのではなく、その前にIRのオープン予定、跡地の利用も考えた十分な対策を。望むものではないが昨年連続的に発生した数々の災害 (地震・大雨・猛暑・台風) も十分に考えられ、後で想定外という言葉は聞かれないうようにお願いしたい。

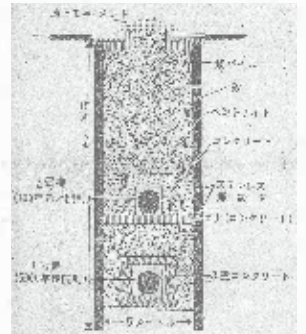
④夢。前回のタイムカプセルのような夢も欲しい。前回は大阪城公園に地上モノUMENTのみが見れるように埋めてあるが、埋めて掘り起こすではなく釘を押せば何が埋蔵されているかが見れるようにするとか、新しいアイデアが欲しい。

⑤触れ合い。前回は外国人が珍しくサインをもらひ、写真を撮ったりして触れ合いの場となった。また外国人は「国民総生産 (GNP) 2位の国とはとはどんな国だろう」の興味もあり、特に「農協こそが日本人の原型」と評している。が今回全く状況が変わっており、前回以上に交流が広がるような場所となって欲しい。

前回、石原慎太郎さんは「人間は祭りについて意味を付けるが、祭りはただ祭りである。お祭りは人間の精神生理、肉体の生理にとって欠かせないもののようなのだ。となれば中身がいかに他愛なかつと、多くの人類が万国博という一つの行事のために浪費し、うつつを抜かすことが、どれほど有益なことか。」と発言されている。開催までの課題は多いが、前回の反省を生かしていただき、そして先を読んだ、政治色のない安全・安心で、開催後の跡地も考慮した皆のための夢の博覧会であつて欲しい。夢洲での開催だけに。

大東町の発展を心よりお祈りいたします。

埋設構造 (断面図)



千里万博でのタイムカプセル

生涯学習  
運営委員会  
からの  
お知らせ

### ★「パソコン教室」を引き続き4月から開催します!

会場: 大東地域交流センター 日時: 毎月第1金曜日13時30分～15時30分  
指導: 野々村英晴氏 参加費: 1,000円/回 準備: パソコン持参

### ★「絵画教室」を新たに5月から開催します!

会場: 大東地域交流センター 日時: 毎月第2日曜日13時30分～15時30分 指導: 藤本雄二氏  
参加費: 500円/回 対象: 大人・子ども 内容: 油彩画 水彩画 クレパス画

### ★「大東町出身の近世画家 堀江友聲」講演会を開催します。

会場: 大東地域交流センター 日時: 5月12日 (日) 13時30分～  
講師: 島根県立美術館主任学芸員 大森拓土氏 参加費: 無料

詳しくは大東交流センター  
(電話: 43-2130)まで  
お問い合わせください。

## 郷土の暮らしと文化

## 大東が生んだ偉大な教育者の野々村運市

東町南 土谷和生



今年のNHK大河ドラマ「いだてん」で脚光を浴びている「日本の体育の父」嘉納治五郎の教育指針である「精力善用自他共栄」の書が大東小学校にある。あるなどと威張って言うこともない、大東小学校を卒業した者なら誰でもよく知っている。この額が当時(明治末年)東京高等師範学校に在籍されていた野々村運市先生の嘱により書かれたものであることは案外知られていない。額にある「進乎齋」は東京高等師範学校の校長であった嘉納治五郎の、雅号である。

野々村運市は現在ご当主野々村文夫さん(西本町)の大曾祖父茂五郎の次男として明治13年に生まれ、32年県立師範学校を卒業、33年には21歳の若さで大東尋常小学校の校長に就任している。3年間校長を務めて、東京高等師範学校に入学、40年卒業、母校講師などを経て昭和

4年同校教授に就任、昭和20年定年退官。そして23年には、大東高等学校初代校長に就任されている。28年東京の自宅で逝去された。

これが先生の簡単な略歴である。「教科目新経営論」など多くの著書があるが、残念ながら松江市や雲南市の図書館にない。私は幸運にも先生を大叔父にもつ木次の故小林健氏に借りて読んだことがある。そうした著書の中に『生徒をして「僕が」「今」「此の教室で」「自分」が解くべき「自分の課題であるという境地に坐らせ得ない限りは、真の教育者としての資格がない』とあったことを覚えている。

また先生には木村孝之翁の求めによって書かれた「大東町誌稿」が残されている。今現存するのは、昭和30年東京木村家に保管されていたものをコピーしたものであるが、貴重な資料である。

なお、掲載した写真の額は、野々村文夫さんの父寛市さんが、大東小学校に寄贈されたものである。



大東のなつかしい風景や人々の生活を写した写真がありましたらご提供ください。(編集委員会)



### まさし 狩野 真志さん(南本町在住)

大学生時代、中国新聞社主催の「中国素人将棋名人戦」鳥根県大会で優勝、県代表として出場した中国大会でも見事優勝、シニアの師匠柳浦氏との3番勝負にも出場、晴れてアマチュア4段の免状資格(段位)を得て、仕事の傍ら将棋教室の先生として日々活躍中の若き棋士 狩野真志さんを探ねました。(取材 西村)



#### Q 将棋に興味を持った理由、その後の将棋とのかかわりは?

6才の頃、5才上の兄が小学校将棋クラブに入部しており、対戦相手として無理やり誘われたのがきっかけです。最初は嫌でしたがその頃はテレビゲームが流行る前だったので将棋のとりこになりました。駒を進めるのに色々考えるので対戦相手との会話はありませんが不思議とコミュニケーションがとれてます。相手の心を読み、駆け引きも楽しいところです。毎日の日課として詰め将棋で勉強しています。寝る前でも4~5問は挑戦しています。「継続は力なり」でしょうか。

#### Q 多方面で将棋教室の講師(先生)されていますが?

山陰中央文化センター出雲教室、わくわく将棋教室、さんびるアカデミー健康塾等、土日は殆ど各将棋教室に出掛け、指導しています。子どもたちには、「将棋は楽しむもの、そして楽しいもの」ということを念頭に、「自主性を大切に」をモットーに指導しています。又人との交流も大切にしています。

#### Q 子どもの頃はどんな少年でしたか?

内気な少年でした。内に秘めた闘志はありましたが表に出すのは苦手でした。将棋を通して次第に自分を出せるようになりました。腰痛で手術をし、好きな運動が出来なくなって落ち込みましたが、兄から教わった将棋を思い出し、「僕には、まだ将棋がある!!」と意を新たに、将棋にのめり込むようになりました。

#### Q 他に趣味は

読書です。人から教わることは易いことですが、人に教えることは難しい。本を読むことで指導法、訓練法、褒め方等学んでいます。

取材を通して将棋に賭ける強い信念を感じました。「自分も選手として、又指導者として努力を続けませんが、将来教える子たちが成長し、この大東から藤井七段、里見女流名人のような棋士が誕生すれば・・・。」と夢を語ります。又、「最近将棋が話題になり、全国に普及されてありがたい。将棋を続けることで何かのお役に立てば嬉しいです・・・。」とも「将棋には最後に一発逆転があつて面白い。」私たちも夢を持ち、それを叶える楽しい人生にしたいですね。



- ・大東町(大木原) 藤原 恒子 様(香典返し)
- ・大東町(清田) 千原 美雄 様(一般寄付)
- ・大東町(新庄南) 佐々木一明 様(香典返し)
- ・大東町(新庄東) 新田 厚 様(香典返し)
- ・大東町(東町下) 難波 幸夫 様(香典返し)

皆様からお寄せいただいたご寄付は地域の絆を深め、支えあう活動に対する補助金等に活用させていただいております。